

JIA 長野県クラブ 38

社団法人 日本建築家協会

1999. 9. 1



ミニ見学会

7月23日。
「あすなる巡回展」反省会の翌日、西沢利一会員設計の「ヘンリー・ミラー美術館」などのミニ見学会を楽しむ



“だんご3建物のまちづくり”

監査 櫻井 武久

山ノ内町の渋温泉街に小さな旅館群の町並があります。その中のある旅館の改築（ファサードとロビーと野天プロ）の仕事を終わりました。

計画依頼のあった数日後に、周辺の様子を現地調査したところ、思った通り日本のどこにでもある町並でした。勝手気ままなありふれた材料や、形。隣の旅館と競うようにつくられたバラバラな町並（行政の中央都市的マニュアルによる住人無視、商業観光税金取立て目的の町並よりは良いか？）

依頼のあった建物は、隣接する2つの建物にはさまれた4間間口の狭いなぎの寝床旅館でした。左側の建物はクリーム色の鉄板サイディング壁といぶし瓦の屋根。右側の建物は黄じっくい壁と新茶色カラー鉄板屋根。どうしても隣の仕上がが目に入ってしまう。

そこで、建物の正面アプローチ左側は、植込みの裏堀に左旅館のクリーム色を取り入れ、外壁は右旅館の黄じっくいを少し渋くしたモルタル金ゴテリシンとしました。また、屋根はいぶし瓦と新茶色カラー鉄板の中間色として、黒茶いぶしのカラー鉄板に計画しました。改築前の入口の格子のデザインや屋根の勾配、切妻屋根の良さもデザインに取り入れました。

竣工式の当日、あいさつで上記のことをちょっと話し

たら、左右の旅館主人は、自分の旅館の一部が改築された新しい旅館のデザインに取り入れられていることで大満足でした。常連の客も、昔の面影、思い出が少し残っている新しい旅館に大満足でした。

町づくりの中では、その地産の材料（石、木など）を取り入れようと考えます。外灯や、看板、街路の植込などで統一性も考えます。しかし、どうも近隣同士の歩み寄りに欠けているように思います。

何かでその町に統一性を計ろうと強引に計画されることが多々あるのではないのでしょうか。今回の改築工事は、隣はどんな材料を使っているのか、不況化で予算が少ないことから、どうやったらローコストにできるかなど、多面から考えたことで功を得られたように思います。

この仕事をしてみて、私のできる町づくりは左右の近隣建物の考察と、ローコストでいかに近隣に調和させることができるかという工夫だと確信しました。町並のバリアフリーとでも言えましょうか。まずは近隣同士の歩み寄りが大切です。

だんご3兄弟の中間の様なものです。いずれこのだんごがどんどんつながって行って、美しい楽しい街になってほしいと思います。



委員会活動に求めるもの

会長 出澤 潔

村尾会長はJ I A NEWS最近号で「建築家の活動は地域に根差した活動によって地域の人々と連帯しながら地域固有の問題を解決していくのが基本である」として、地域会の活動に期待を寄せておられます。

当クラブはその伝統と、賛助会の皆様を含めた全会員のご協力によって、地域会としての着実な活動を展開しています。私はこの活動が更に発展するためには、皆様お一人おひとりのエネルギーを数倍のエネルギーに替えるためのシステムが必要であると思っています。そのためには、会員お一人おひとりの顔が見えることがどうしても必要なことであると思います。それぞれが身近に感じ、いつでも心を開いて話し合うことのできる姿、まずこのことが大切なことです。

昨年来、会員は必ずしかるべき委員会に所属するようになりました。各委員会の事業遂行の過程で必ず確かなコミュニケーションが生まれるはずです。そしてそのことは個人にとって得難い宝となり、会にとっては大きなエネルギーの集積となるでしょう。本年1年、積極的に委員会活動に参加しお互いを高め合い、J I A会員である幸せと誇りを確認し合っていたいだきたいと思っています。



活動の活性化に期待

総務委員長 関 邦 則

数年前に総務委員会が設置された頃に比べると、ここへ来て組織としての体制や制度はやや落ち着いてきたように感じているのですがいかがでしょうか。会員の皆様のご意見に基づいた改善が少しずつでも実施されていくことによって、建築家を取り巻く社会環境の向上が同時に計られていくのだらうと思っています。

数年を要して大きく改善されたことの一つにクラブの財政状況の立て直しがありました。一時は年度当初などにおいてかなり逼迫したこともあったように聞いていますが、予算決算の見直しによって余裕を残した予算が組めるようになりほっとしています。現状では一見余裕がありすぎるように思われるかもしれませんが、年度当初のための余裕はどうしても必要ですし、これを機会に活動の活性化を模索していてもよいのではないかとこの気もしています。建築家協会や建築家制度自体が変わろうとしている現在、社会的に私たちに求められるものも大きく変化してくるかもしれないという思いもあります。

また今年役員改選の準備もしなければなりません。選定議員選挙の時期が来ましたら皆さんにご案内を差し上げますので是非ともご協力をお願いいたします。



賛助会員の皆さんに感謝を!!

交流委員長 高橋 重徳

新たな時代の変化と共に、私達のまわりの状況は更なる方向を目指して変わりつつあり、正会員・賛助会員を問わず、そのあるべき姿を再確認する時期に差しかかっているのではないのでしょうか。

交流委員会は、正会員と賛助会員を結ぶための重要な役割を与えられていると考えています。正会員と賛助会員は車の両輪の様なものであることは言うまでもありません。各種の事業を通してお互いの立場を思いやり、協力し合える姿勢が何よりも大切だと思います。

本年度も委員会として、会員相互がコミュニケーションをとれる機会を整え、一歩進んだ交流を深めるための工夫と努力を実行していきます。特に、正会員の皆さんの積極的参加を重ねてお願いします。

最近の厳しい状況下でも賛助会員の皆さんは、あらゆる方向でクラブに対しご協力を頂いていますし、新しい方々も賛助会に加わって支援していただいています。

当クラブに特別な思いを持って応援して下さる大勢の賛助会員の皆さんにあらためて感謝し、その期待に応えるべく努力をしなければならないと思っています。



居心地の良い素敵なクラブのために

会員委員長 松 下 重 雄

「あすなる巡回展」は、県内建築科学生卒業設計コンクール受賞作品と我々の作品を展覧し県内を巡回するものですが、昨年度より岡谷会場が加わり5会場となりました。社会との接点という面で好評で、より一層根付かせたいと思っています。

「あすなる見学会」は、所員や家族連れの勉強会として内向きの事業ですが、今後は賛助会の皆さんも一緒に交流できる企画を計画したいと思います。

「本音で語ろう会」も恒例となりましたが、タイムリーで談論風発なテーマを設定したいと思います。

仮称「建築家カタログ」は現在31名の参加により取材も順調に進んでいます。参加を希望される方は、大至急委員長までお問合わせ下さい。

これらの事業は全て、会員同士の親睦はもとより、会員の社会に対する情報発信源であり、ひいては会員の増強に一役を担う活動です。赤羽吉人、伊藤正明、小林克己の新会員を新たに当委員会に加え、居心地の良い素敵なクラブを築き上げていきたいと存じます。



事業委員会の抱負

事業委員長 上村保弘

事業委員会では、会員の「質の向上」を目指して、文化講演会を開催してきました。また、卒業設計コンクールも、JIAを理解してもらうための企画として実施してきました。しかし、21世紀を目前に控えた現在、もう一度初心に戻って委員会の方向性を見直す時期に来ているのではないかと感じています。

文化講演会は、専門性や話題性のあるテーマで実施してきましたが、一回完結型で、前後の講演会に連動していません。このため、インパクトはありますが、応用の糸口がつかみにくいと考えようになりました。まちが元気を失い、その対策のため中心市街地活性化法が生まれさらに今年7月にはPFI促進法が制定されました。まちをなすものが建築である以上、私たちが元気がないまちをつくった責任を負っていることは否定できません。こうしたまちづくりという観点から、講演会をより有効にしたいと思います。

卒業設計コンクールも、総合的に再構築し、専門家のみならず、学生や一般の方に対し私たちのまちという取組みで新しい展開を可能にしたいと考えています。



まちづくり・まちづくり

まちづくり特別委員長 川上恵一

戦後の繁栄の末に、日本人がアイデンティティを失った今になって、まことしやかにまちづくりが盛んに言われるようになりました。しかし、実際はまちづくりと言われるまち壊しが続いており、建築はその最たるもののような気がしてなりません。先祖が営々と築いてきた文化都市村が変質する姿を見るにつけ、本当にバチが当たってしまうかもしれないと思っています。誤解を恐れずに言えば、新しい「まちづくり」より、地方は今までダメにしたものを見直す「まちづくろい」をする方がよほどまちづくりになるのではないのでしょうか。私たちは、日頃建築設計を通してまちづくりに関わっていますが、もう一度「まちづくりとは？」と問い直してみると、職能を通して集団・個人として、また生活者の一人として、その良心にしたがって日々できることをすることの大切さに気がつきます。当委員会メンバーは信州各地に根付いて活躍していますが、もう一度原点にかえて、内向けの勉強会を中心に、時には他団体との交流の窓口となり、肩肘はらずに深く静かにやっていこうということになりました。任期後半のもう一年、まちづくろいのきっかけをつくれるよう頑張りたいと思います。



忙しいけど頑張る

広報委員長 関邦則

ある会員の方から「会報いつも読んでます。長すぎず短すぎず読みやすい。変化があっていい」などと言われて気を良くしたこともあります。年に6回(隔月)の発行は休む間もなくけっこう大変な作業です。1年間実施してみて年間の事業スケジュールとの関連もなんとかつかめてきたので、ようやく軌道にのったというところでしょうか。会報の充実がクラブそのものの充実を意味することで喜ばしいことです。できるだけ多くの会員に登場していただきたいと思っています。

今後は会報を通してクラブの活動と社会のパイプを作って広報としての本来の機能を果たすことも考えていかなければいけないと思っています。配布の方法もさることながら内容についても研究していきたいと思っています。

本年は新しい事業が加えられました。支部事業であるアーキテツ・ガーデンへの出展を担当することになりました。今年は「銀座建築祭」と銘打って、銀座地区一帯に会場を設営(分散会場)しています。地域会は「ふるさとのまちなみ展」ということでイナックスアーキブラザ6階にてパネル展示を行います。是非皆さんにもご覧いただきたいと思っています。



賛助会の役割

賛助会長 坂田守夫

日本中が不景気の波に吞まれて何年かが過ぎました。長野県もオリンピックまで、何とか景気がよかったです。それが以後は日本中の仲間入りをしてしまいました。ある人が「日本のどこかが景気がよく、他が不景気なら頭にくるが、全国津々浦々不景気なんだから、じっと我慢をしなければいけない」と言っていました。その通りだと思います。

JIA長野県クラブの賛助会員は現在73社あります。会員の皆様が各種会合に積極的に参加していただければと思います。

賛助会員の皆様は、会費を支払っているのですから、先生方と仲良くお付き合いをさせて頂くためにまず顔を売る努力をして欲しいと思います。

本年度はJIA長野県クラブの建築家カタログが作成されます。本当によいカタログに仕上げていただくため、我々賛助会としてもメーカー広告を掲載する形でご協力することに決定いたしました。こんな時期ではありますが、皆様方の暖かいご協力をお願い申し上げます。会員の皆様方のご健勝をお祈りいたします。

クラブインサイド

第3回幹事会

坂田 守夫

6月28日、「サンルート松本」にて開催。クラブ報告では、各委員会活動状況の報告等。本部支部報告では、仮称「建築家カタログ」に対する地域事業助成申請の報告等。議事では、会員入退会の承認のほか、新委員4名の追加と各委員会スケジュールについて検討した。支部アーキテクト・ガーデンへの参加については、広報委員会作製のパネルを展示することになった。また、前賛助会長笠井邦夫氏ご逝去の報告があった。

第1回交流委員会

高橋 重徳

6月28日、松本市「サンルート松本」にて開催。本年度事業計画に基づき、各事業の実施内容、時期、方法などについて検討。特に、技術交流会の積極的参加を促すための工夫を検討することで一致。また、仮称「建築家カタログ」の発行に対する賛助会の協力体制について、意見交換を行った。

第1・2回広報委員会

関 邦 則

6月23日・7月21日、松本市の「ホテルルートイン松本インター」にて開催。今年度のアーキテクト・ガーデン「ふるさとのまちなみ展」への出展について検討を行った。埼玉と共に中仙道のまちなみをピックアップしてパネル化し出展することにした。

会員委員会

松 下 重 雄

7月23日、昨年度の「あすなろ巡回展」の反省会を大町温泉郷において盛大に挙行了。翌日は西沢利一会員の作品「ヘンリー・ミラー美術館」をはじめ、数件のミニ見学会を実施。楽しいひとときを過した。今年も頑張らしましょう。

仮称「建築家カタログ」発刊は、賛助会の協力を得ながらいよいよ追い込みに入った。

第4回幹事会

佐 藤 友 治

7月27日、松本市「上土ふれあいホール」にて開催。文屋・オフィスMの同席により、仮称「建築家カタログ」発刊にむけて集中協議を行い、体裁・予算・部数・価格・賛助会への要請などについて意見が集約された。

クラブアウトサイド

全国自治体総合フェア'99 川上 恵一

5月中旬、東京ビックサイトに全国のまちづくり活動パネル100枚が展示された。当クラブでは城下町松本のまちづくりについて、14年間でまちが視覚的にどう変わって来たかを2枚のパネルにまとめ出展して好評を得た。

第2回支部総務委員会

久 保 隆 夫

6月22日開催。先に開催された支部通常総会、常任理事会の報告が行われた。協議事項は委員会構成及びJIA大会'99鎌倉について。また、本年の総務委員会の主な検討事項は委員の任期について。

第4回支部保存問題委員会

依 田 政 司

7月2日開催。9月に行われる「アーキテクト・ガーデン'99」において、当委員会が担当する「銀座・建築・路地裏探検」写真展とシンポジウムのスケジュールと分担を確認した。

その他「JIA大会'99鎌倉」におけるワークショップの企画と、来年2月に予定されている保存問題拡大委員会埼玉大会の基本方針とスケジュールを協議した。

第4回支部会員委員会

久 保 田 三 代

7月7日開催。例年開催している会員の交流を目的とした会員集会や新会員の集いをより意義深いものとするための検討。会員相互が見えやすいように、入会に際し地域会の役割を大きくしてはどうかとの意見も出された。

第15回地域組織整備委員会

出 澤 潔

7月9日開催。99年度地域事業助成費申請について審議。本部事業として決定された地域会活動に関連する顕彰制度について、大宇根JIA25年賞委員に同席していただき実施に向けて協議。JIA大会'99鎌倉での第4回全国地域会合同会議開催について協議が行われた。

第2回支部役員会

関 邦 則

7月14日開催。UIA2005年大会は選挙によってイスタンブールに決まり、名古屋は落選した。また指定法人化については公益法人であることが求められているが理事半数を外部者にするという条件をクリアするのが困難な状況。プレティン8月号に掲載の支部長からの提言をご一読いただきたい。

— 新入会員紹介 —

正 会 員 赤羽 吉人 (株)林魏建築設計事務所
移籍 (東京→長野市)
小林 克己 (株)北沢建築研究所



JIA長野県クラブ

編集人 関 邦則
発行人 出澤 潔
発行所 JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科
426-1
長野県建築士会館内
TEL 026 (232) 3897
FAX 026 (232) 5303
作 成 新建新聞社